

コメント

橋川 俊忠

私は、日本常民文化研究所の所長、COEの事務局長を務めていますが、本来政治思想史が専門で、非文字資料についてはまったくの素人でしかありません。しかし、素人だからかえって全体が見えることもあるかもしれないと思ってやってきました。今日の三先生のご報告は、内容が多岐にわたり、素人には難しい面もありましたが、素人なりにご報告をお聞きして考えたこと、またもう少しおうかがいしたかったことなどを含めて、コメントさせていただきます。

まず、白先生は、中国の文化遺産保存・修復の現状についてご報告されました。中国が様々な文化遺産の修復・保存に国家的規模で取り組んでいるとのこと、かつての文化大革命当時を知る者として、歴史は変わったという印象を強く持ちました。また、戦争中、中国の文化遺産を破壊してきた歴史を持つ日本の国民の一人として、深く反省すると同時に、保存・修復の困難な事業に取り組まれている中国の方々に敬意を表したいと思います。

その上で、文化遺産の保存・修復の問題についておうかがいしたいとおもいます。私は、ここ数年浙江省を中心として何度か調査に出かけたことがあります。その時に、中国での文化遺産の保存活動の一端を見学する機会がありました。例えば、烏鎮や朱家角などの水郷地帯の町並み保存・復元の様子などです。それらの場所は、行く度に整備され、観光客も多数訪れる観光スポットになっています。そこで感じたことですが、整備された結果を見たとき、これは保存なのか、復元なのか明確ではない、ということです。保存は、原則として現状の保存であり、できる限り手を加えないことになります。復元の場合、何時の時点の状態に戻すのか、その時点の状態を確実に証明する根拠は何か、問題になります。

中国の場合、私が見た限りでは、復元が中心のようですが、その場合の根拠をどう確かめておられるのか、おうかがいしたい。

次に、ガロ先生のご報告ですが、大変うらやましい思いで聞きました。日本では、学芸員といっても大学の付録のような課程で、せいぜい数十単位で資格が取得できます。学芸員の種別もなく、ほとんど専門家としては役に立たないような資格に過ぎません。フランスでは、日本で言えば大学院レベルで、高度な専門家としての訓練がおこなわれ、キュレーター、コンサーバーと資格が分かれ、それぞれが高度に専門家としての能力を身に付けるのに十分なカリキュラムが用意され、現場での訓練も半年、一年という単位で実施されているとのこと、また、その資格を取得した者の社会的評価もきちんとしている点など、日本が学ばなければならない点が多々あると思いました。

ただ、ひとつお聞きしたいことがあります。フランスの場合、ムゼー（ミュージアム）の概念が幅広く、日本で言う博物館も美術館もその中に含まれていると聞いています。フランスの各地の博物館を回っての印象ですが、地方の地域に密着した民俗や民具を中心とした博物館、エコミュージアムというのでしょうか、それがずいぶん活発に活動しているという感じがしました。そういう博物館と、高級な美術品を展示する美術館とでは、その意義付け、所蔵品に対する対し方、収集方針、館の運営の仕方など多くの点で相違があると思いますが、高度専門職学芸員の養成課程で、その点はどのような考慮が払われているのでしょうか。

最後に、能登先生のご報告ですが、これは、情報工学の専門性が高いご報告で、文系の素人には、まるで

歯が立たないところですが、お聞きして、次のような印象を受けました。

つまり、考え方として、非文字資料の資料としてのデータ化を考えると役に立つのではないかということですが。

非文字資料、たとえば写真というものを考えたときに、写真は何時どこで誰がうつしたか、あるいは撮影者が何を写そうとしたのかという情報を付けただけでは、非文字資料の研究のために役に立つデータとはいえない。そういうレベルとは別に、研究者が、何が写っているのかを検討して、研究のために役に立つ情報を写真から取り出さなければいけない。そして研究の目的や可能性は、研究者の専門や関心によって多様でありうる。したがって、非文字資料の研究とは、異なる専門を持つ研究者の共同作業が必要になる、ということが一つ。

それから、非文字資料をデータ化する場合、研究の対象となる物自体についての、たとえば材質や形状などの情報のレベル、その機能あるいは用途によって定義されるレベル、あるいはそのものに対する人間の関心のあり方から定義されるレベルなど、多層的な定義のレベルを設定する必要がある。たとえば、一本の先のとがった棒が箸であったり、釘であったり、武器であったりする様なこと、そういう多層的というか多角的というか、多様な定義レベルを含んだデータベースを考えなければならないのではないかと、ということ。はたして、そんなデータベースがうまく動くのか分かりませんが、何か新しい発想が求められているという感じがしました。

まことに素人くさいコメントで申し訳ありません。